

高等学校

平成 4 年 度

教育研究員研究報告書

教育経営

東京都教育委員会

平成4年度

教育研究員名簿

№	学区	学 校 名	氏 名
1	1	九 段 高 等 学 校	齋 藤 八 重 子
2	1	八 潮 高 等 学 校	大 室 文 之
3	3	田 柄 高 等 学 校	藤 原 成 憲
4	4	豊 島 高 等 学 校	徳 久 寛
5	4	文 京 高 等 学 校	黒 澤 正 信
6	4	赤 羽 商 業 高 等 学 校	鈴 木 正 之
7	5	忍 岡 高 等 学 校	大 倉 範 幸
8	6	化 学 工 業 高 等 学 校	藤 田 昭 雄
9	8	羽 村 高 等 学 校	神 保 邦 彦
10	9	武 蔵 高 等 学 校	江 原 美 規 子
11	9	東 村 山 西 高 等 学 校	堂 山 勇
12	10	稻 城 高 等 学 校	苗 村 深

教 育 庁 指 導 部 主 任 指 導 主 事 小 林 俊 徳
教 育 庁 指 導 部 高 等 学 校 教 育 指 導 課 指 導 主 事 小 川 敏 雄
指 導 主 事 青 山 彰

研究主題 自己教育力を高める弾力的な教育課程の編成
－基礎・基本を重視した多様な選択－

目 次

I	主題設定の理由	2
II	全日制課程普通科Aタイプ	3
	1 教育課程編成の基本的な考え方	
	2 教育課程の特色 (1)教育課程の編成 (2)教育課程のタイプと系列	
	3 履修, 修得, 進級・卒業の認定について	
	4 年間行事計画	
	5 今後の課題	
III	全日制課程普通科Bタイプ	10
	1 教育課程編成の基本的な考え方	
	2 教育課程の特色	
	3 履修, 修得, 進級・卒業の認定について	
	4 週時間割編成例	
	5 キャリアガイダンス	
	6 年間行事計画	
IV	全日制課程職業科	16
	1 工業科の教育課程	2 商業科の教育課程
	(1) 教育課程編成の基本的な考え方	(1) 教育課程編成の基本的な考え方
	(2) 今後の課題	(2) 今後の課題
V	定時制課程普通科	20
	1 教育課程編成の基本的な考え方	
	2 基礎的・基本的な内容の習得	
	3 多様な選択	
	4 学校行事と教科・科目の授業との連携	
	5 今後の課題	
VI	まとめと今後の課題	24

I 主題設定の理由

科学技術の進歩や経済の発展に伴い、情報化、国際化、高齢化等が進展し、人々の価値観や生活様式は多様化してきた。しかし、これまでの高校教育では、画一的な教育課程を編成・実施したり、一斉指導方式の授業を行ったりしてきた傾向がある。また、進路指導に当たっては偏差値に偏った指導をすることが多く、一人一人の生徒の特性に応じた指導やそれぞれの個性を生かす指導が十分ではなかったと思われる。

学校教育には、社会の変化に主体的に対応する能力を育成することが期待されている。そのためには、基礎・基本を重視するとともに、自己教育力を高めることのできる多様で弾力的な教育課程の編成が必要であると考え、次の点を考慮しながら研究を進めた。

- ① 学校・学科の実態、生徒の実態等に応じて、基礎・基本の徹底を図ること。
- ② 生徒の特性や、地域社会のニーズに応じた、多様な選択履修ができること。

第1学年では、中学校との関連を図りつつ、基礎的・基本的な内容を充実させるために、共通な科目を多く履修させるようにした。第2学年及び第3学年では、自ら学ぶ意欲を高め、主体的に学習する態度を養うため、多くの科目を選択履修することができるよう配慮した。

具体的な教育課程を編成するに当たっては、次の5つのタイプの学校を想定した。

I 全日制課程普通科Aタイプ

進学、就職等多様な生徒のニーズに応じた学校。第1学年で「産業社会と人間」(1単位)を全員が共通履修する。第2学年から生徒の進路希望等に応じて、文系(2クラス)、理系(1クラス)、総合(5クラス)のタイプを選択する。

II 全日制課程普通科Bタイプ

学力が比較的高く、生徒も保護者も大学への進学を希望している学校。第2学年より生徒の進路希望等に応じて、文系(人文、社会科学、国際)、理系のタイプを選択する。

III 全日制課程職業科

工業科、商業科について検討した。工業科では、第1学年は共通履修とし、第2学年より学科を選択する。商業科は第2学年及び第3学年に自由選択科目をおいた。

IV 定時制課程普通科

第1学年で、基礎・基本の徹底を図り、第3、4学年で、多様な選択を可能にした。

II 全日制課程普通科 Aタイプ

1 教育課程編成の基本的な考え方

現行の学科制度は、普通科と専門学科に二分され、ややもすると、普通科は進学目的、専門学科は就職目的と固定的に考える傾向がある。このような現状を克服するため、生徒自らが適性、興味・関心、将来の進路への自覚を深め、これを追求できる教育課程の編成を研究した。研究に当たっては、AⅠ、AⅡの二つのタイプに分けて検討し、AⅠタイプは、専門に関する教科・科目を含め多様な選択が可能な教育課程とし、望ましい職業観・勤労観の育成を図ることをねらいとした。AⅡタイプは、大学・短大等への進学も可能となる教育課程とした。

生徒一人一人の個性やニーズに応じるために、従来の普通科、職業科という枠にとらわれず、総合的な専門に関する選択科目群を開設した。生徒の多様な個性を生かすという観点で、学校選択から生徒選択へと発想を転換し、社会の変化に対応し、自ら主体的に考え、判断し、行動することのできる資質や能力を育成する弾力的な教育課程の編成を目指した。教育課程は、

- (1) 普通教育と専門教育の連携を図るため、専門に関する選択科目群を開設し、生徒自らが主体的に選択できるようにするとともに、体系的な学習もできるように配慮した。
- (2) 第1学年は共通の基礎的な教科・科目を履修させるとともに、将来の進路に関する指導を重視し、キャリアガイダンスを行う。そのため全ての生徒に「産業社会と人間」を履修させ、職業に関する体験的な学習を通して社会の一員として生きて行くために必要な資質、将来の職業生活の基礎、コミュニケーション能力等を育成する。また自己の進路への自覚を深め、主体的に進路を選択する動機付けとなるよう科目の指導内容・方法を工夫した。
- (3) 第2学年より生徒の特性、進路などに応じた教科・科目の選択を可能にした。生徒の持つ能力、適性、興味・関心を最大限に伸ばさせるとともに選択科目の設定に当たっては、進学(大学・短大)理・文系、専門学校、就職と卒業後の幅広い分野への進出が可能となるよう、第2、3学年では学年を超えて履修できる科目を多く設置した。このことにより単位制の趣旨を生かすとともに、異学年の交流による学習意欲の増進も望めると考えた。
- (4) 英語・数学では単位数を増加し、基礎的・基本的な内容の定着を図り、学ぶことの楽しさや成就感が得られるよう配慮した。専門に関する選択科目群では、人間としての在り方生き方を探求したり、将来の社会人・職業人として社会の変化に対応し、幅広い視野から物事を判断する能力や、自らの課題に主体的に取り組み、これを解決しようとする態度、創造性の育成を図るため実践的・体験的な学習を重視する。

全日制課程普通科A I タイプの教育課程

教科	科目	標準単位数	1年		2年			3年		
			必修	必修選択	必修	必修選択	自由選択	必修	必修選択	自由選択
国語	国語Ⅰ	4	4							
	国語Ⅱ	4								
	国語表現	2			2	2			2	
	現代文	4								4
	現代語	2			2	2				2
	古典Ⅰ	3								3
	古典Ⅱ	3								
地理歴史	古典講読	2								
	世界史A	2								
	世界史B	4	2		2					
	日本史A	2						2	2	
公民	日本史B	4								2
	地理A	2							2	2
数学	地理B	4								
	現代社会	4	2		2					
理科	倫理	2					2			2
	政治経済	2					2			2
	数学Ⅰ	4	4							2
	数学Ⅱ	3								
	数学Ⅲ	3								
	数学A	2								
	数学B	2								
	数学C	2								
	総合理科	4								4
	芸術	物理ⅠA	2				2			
物理ⅠB		4		4						
物理Ⅱ		2								
化学ⅠA		2				2				
化学ⅠB		4		4						
化学Ⅱ		2								
生物ⅠA		2				2				
生物ⅠB		4		4						
生物Ⅱ		2								
地学ⅠA		2				2				
保健	地学ⅠB	4		4						
	地学Ⅱ	2								
芸術	体育	7~9	3		3			3		2
	保健	2	1		1					2
	音楽Ⅰ	2		2						
	音楽Ⅱ	2			2					2
	美術Ⅰ	2		2						
	美術Ⅱ	2			2					2
	美術Ⅲ	2								
	工芸Ⅰ	2		2						
	工芸Ⅱ	2			2					2
	工芸Ⅲ	2								
外国語	書道Ⅰ	2		2						
	書道Ⅱ	2			2					
家庭	書道Ⅲ	2								2
	英語Ⅰ	4	5							
産業	英語Ⅱ	4		4						
	オーラルコミュA	2		2						
国際文化	オーラルコミュB	2								2
	オーラルコミュC	2								2
家庭	リーディング	4								2
	ライティング	4								2
産業	家庭一般	4		2		2				
	生活技術	4		2		2				
産業	生活一般	4		2		2				
	産業社会と人間	※	1							
産業	ホームルーム活動	1		1				1		
	クラブ活動	1		1				1		
履修単位数合計			32		32			22~32		

教科	科目	標準単位数	2年	3年
			自由選択	自由選択
情報処理系	情報技術基礎	2	2	2
	プログラミング技術	2~6		3
	ソフトウェア	2~4		2
流通経済系	コンピュータ応用	2~4		3
	流通経済	3~5	3	3
	計算事務	2~6	2	2
	簿記	3~8	3	3
	工業簿記	2~5		2
生活デザイン系	文書処理	2~5	3	3
	マーケティング	2~4		2
	インテリアデザイン	※		2
生活デザイン系	服飾デザイン	2~18		3
	染織デザイン	2~4		2
生活デザイン系	商業デザイン	2~5		2
	看護基礎	7	2	2
生活科学系	保育基礎	2~18	2	3
	児童心理	2~6		2
	小児保健	2~8		2
	社会福祉	※		3
	公衆衛生	2~6		2
	栄養	2~6		2
食物文化系	食品化学	2~10		2
	食品加工	2~4		2
	食品流通	2~6		2
環境科学系	食調	2~12		3
	環境科学基礎	※	2	2
環境科学系	農業基礎	3	3	3
	栽培環境	2~6	2	2
	生物工学基礎	2~6	2	2
	野菜	2~8		3
	果樹	2~8		3
	草花	2~8		3
人間科学系	人体生理	※		2
	スポーツⅠ		2	2
	スポーツⅡ		2	2
	スポーツⅢ		2	2
	ダンス		2	2
芸術表現系	野外活動	6	3	3
	映像表現	※		3
	音楽史	3		3
	作曲基礎	※		2
	ソルフェージュ	3		3
国際文化系	音楽理解	※		2
	国際経済	2~4	3	3
	国際政治	※		2
	外国事情	3	3	3
国際文化系	国際交流活動	※		2
	時事英語	3		3
国際文化系	日本文化	※		2

全日制課程普通科AⅡタイプの教育課程

教科 科	科 目	標準 単 位 数	1 年		2 年					3 年				
			必 履 修	必 修 選 択	文 系		理 系		自 由 選 択	文 系		理 系		自 由 選 択
					必 履 修	必 修 選 択	必 履 修	必 修 選 択		必 履 修	必 修 選 択	必 履 修	必 修 選 択	
国 語	国 語 I	4	4											
	国 語 II	4												
	国 語 表 現	2												
	現 代 文 文 語	4			2	2		4	2	2			4	
	現 代 語	2						2		3			2	
	古 典 I	3			2			4		2			4	
	古 典 II	3						3		3			3	
地 理 歴 史	古 典 講 読	2						2					2	
	世 界 史 A	2						2					2	
	世 界 史 B	4	2		2			2					2	
	日 本 史 A	2						2					2	
公 民	日 本 史 B	4			2				2			4	4	
	地 理 A	2						2				4	4	
	地 理 B	4			2				2			4	4	
	現 代 社 会 理 論	4	2		2			2					2	
数 学	政 治 経 済	2						2					2	
	数 学 I	4	4					2						
	数 学 II	3						3					4	
	数 学 III	3										3		
	数 学 A	2						2					2	
	数 学 B	2										2		
	数 学 C	2											2	
理 科	総 合 理 科	4											4	
	物 理 I A	2											4	
	物 理 I B	4		4				4					4	
	物 理 II	2										2	2	
	化 学 I A	2										2	2	
	化 学 I B	4		4				4					4	
	化 学 II	2										2	2	
	生 物 I A	2										2	2	
	生 物 I B	4		4				4					4	
	生 物 II	2										2	2	
保 体	地 学 I A	2										2	2	
	地 学 I B	4		4				4					4	
芸 術	地 学 II	2										2	2	
	保 体 育 健	7~9	3		3			3			3		3	
	音 楽 I	2	1		1			1					2	
	音 楽 II	2											2	
	音 楽 III	2											2	
	美 術 I	2											2	
	美 術 II	2											2	
	美 術 III	2											2	
	工 芸 I	2											2	
	工 芸 II	2											2	
外 国 語	書 道 I	2											2	
	書 道 II	2											2	
	書 道 III	2											2	
	英 語 I	4	5											
家 庭 生 活	英 語 II	4												
	オラルコミュ A	2											2	
	オラルコミュ B	2							2				2	
	オラルコミュ C	2							2				2	
産 業	ライティング	4											4	
	ライティング	4											4	
	家 庭 一 般	4		2		2		2						
ホ ー ム ラ ー ブ	家 庭 技 術	4		2		2		2						
	生 活 技 術	4		2		2		2						
履 修 単 位 数 合 計	生 活 一 般	4		2		2		2						
	産 業 社 会 と 人 間	※	1											
ホ ー ム ル ー ム 活 動			1					1					1	
ラ ー ブ 活 動			1					1					1	
履 修 単 位 数 合 計			32		30~32		32		22~32		22~32			

2 教育課程の特色

(1) 教育課程の編成

第1学年は、必修科目と必修選択科目のみとし、基礎的・基本的な内容の充実を目的とし、指導に当たっては習熟度別授業やチームティーチングを積極的に取り入れ、指導の効果を上げる。キャリアガイダンスを重視し、「産業社会と人間」を置き、進路指導を総合的・系統的・継続的に行えるようにし、従来のホームルーム活動の一部という形態の指導ではなく、生徒に履修・修得させる科目として教育課程の中に位置付けた。この科目の履修内容としては、

- ① 産業活動の体験
- ② 学校における複数分野にわたる基本的な実習
- ③ 社会人との交流
- ④ 意見発表・討論

等が考えられる。この科目を指導する中で、望ましい職業観・勤労観を育むとともに、自らの進路希望に応じて、第2、3学年での選択科目の構成を考えるようにした。

第2、3学年は、生徒の進路希望に応じたクラス編成とした。大学・短大進学を目標とするクラスは、受験に対応するだけでなく、進学先の授業に適應できる能力の育成が図られるような選択科目を用意した。専門学校あるいは就職などを目標とするクラスは、幅広い分野の基礎知識を学習することによって学習意欲を喚起し、多方面にわたる進路選択を可能にした。

また、生涯学習の基盤を培う。

(2) 教育課程のタイプと系列

第1学年についてはAⅠタイプ、AⅡタイプとも共通とし、「英語Ⅰ」は基礎・基本の充実を図るため標準単位数より1単位増加し5単位とした。

AⅠタイプは第2、3学年で、普通科目の履修は標準単位数とし、選択に進路希望を重視した（生徒のニーズを生かした）専門に関する選択科目群を設置し、就職や専門学校への進学に対応できる資質や能力を育成することを特徴としている。

- ① 情報処理系は、コンピュータに習熟し、情報活用能力を育成することを目標とし、専門学校への進学や就職希望の生徒を対象とする。
- ② 流通経済系は、「簿記」「計算事務」「文書処理」の学習で簿記、珠算、電卓やワープロ検定などの各種検定試験の合格を目指している。ビジネス・経理事務系の専門学校への進学や就職希望の生徒を対象とする。
- ③ 生活デザイン系は、「美術」「工芸」と連携した指導により、デザイン系の専門学校へ

の進学希望生徒を対象とする。

- ④ 生活科学系は、保健体育・家庭と連携した指導により、看護・医療、保育、社会福祉系の専門学校への進学希望生徒や就職希望生徒を対象とする。
- ⑤ 食物文化系は、家庭と連携した指導により、栄養士・調理師の専門学校への進学希望生徒や就職希望生徒を対象とする。
- ⑥ 環境科学系は、「生物」「化学」と連携した指導により、バイオテクノロジー・園芸系の専門学校への進学や、就職希望の生徒を対象とし、一部の科目では実験・実習を行う。
- ⑦ 人間科学系は、保健体育と連携した指導により、体育指導者（インストラクター・トレーナー・地域指導者など）の専門学校への進学希望の生徒や就職希望の生徒を対象とする。
- ⑧ 芸術表現系は、「音楽」「美術」と連携した指導により、音楽・音響・放送技術・アニメーター系の専門学校進学希望の生徒を対象とする。
- ⑨ 国際文化系は、外国語・旅行業務系の専門学校進学希望の生徒を対象に外国語、地理歴史、公民と連携した指導により、国際理解教育を進める。

AⅡタイプ(文系)は第2、3学年において国語で「現代文ー古典Ⅰ」、「現代語ー古典Ⅱ」のどちらかを必修選択とし、自由選択での履修も可能とした。地理歴史と外国語は全科目の履修を可能にした。さらに「英語Ⅱ」を2学年で6単位とし標準単位数より2単位増加した。

AⅡタイプ(理系)は数学、英語の基礎・基本の徹底を図るため、「数学Ⅰ」は6単位、「数学Ⅱ」は5単位と標準単位数よりそれぞれ2単位増加した。「英語Ⅱ」は1単位増加し、5単位とし、また、選択を活用すれば、数学、理科、外国語の各教科で全ての科目が履修できるようにした。

3 履修、修得、進級・卒業の認定について

履修と修得を明確に区別するため、必履修科目の修得を義務付けない。生徒が履修した科目は修得できるよう、補習・追試・課題提出等のきめ細かい指導を行い、できるだけ進級・卒業が可能となるように配慮する。また、選択科目を活用することにより未履修科目を再履修できる場合は、進級を認める。

なお、卒業に必要な修得単位数は80単位とする。

4 年間行事計画

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
全校の学年行事	1	入学式 オリエンテーション	ホームルーム 会	スポーツ大会		クラブ合宿		文化祭 体育祭	芸術教室		マラソン大会	スキー教室	
	2		ホームルーム 会	スポーツ大会		クラブ合宿		文化祭 体育祭	進学 芸術教室	スキー学校	マラソン大会		
	3			スポーツ大会		クラブ合宿		文化祭 体育祭	芸術教室	スキー学校			卒業式
教科指導	1	基礎学力テスト	基礎学力テスト	基礎学力テスト		各科補講	補充テスト				各科補充 テスト	各科補講	
	2				学習合宿	各科補講	補充テスト				各科補充 テスト	各科補講	
	3					各科補講	補充テスト				各科補充 テスト		
模試・検定	1						実力テスト				英力テスト		
	2	進路別模試	進路別模試	進路別 模試 検定		進路別 模試 検定	進路別模試	進路別 模試 検定		進路別模試	検定	検定	
	3	進路別模試	進路別模試	進路別 模試 検定		進路別 模試 検定	進路別模試	進路別 模試 検定				検定	
進路指導	1			職業講話			適性 選抜 検査 説明	職業講話	選抜予備調査		選抜本調査		
	2		進路説明会	進路説明会								進路説明会	
	3		進路説明会	進路説明会 (就職者)			模擬面接 (進学者)						
教育相談	1	個人面談			教育相談					個人面談 (進路)	教育相談	教育相談	
	2	個人面談			教育相談			個人面談 (進路)		個人面談 (変更)	教育相談	教育相談	
	3		個人面談 (就職)		教育相談			個人面談 (進学)		教育相談	教育相談		
地域活動	全	地域美化	地域美化	地域美化	地域美化	地域スポーツ 指	地域美化 祭礼	地域美化 スポーツ大会	地域美化	地域美化	地域美化 祭礼	地域美化 マラソン大会	地域美化 スポーツ大会

(1) 学校行事

全校あるいは学年ごとの行事をできる限り多く計画した。これらの行事を通して生徒同士や生徒と教師、地域の人々とのふれあいを深めることができる。Aタイプの学校の生徒は、就職、専門学校・短大・大学への進学と多方面に向かって自己実現を図ろうとしている。学校行事はその多様な生徒の気持をひとつにできる大切な機会であり、その体験により生徒は集団への帰属意識を高めることができる。また地域と連携した行事を通して地域との交流を深め、多くの人との心のふれあいを体験できる。実施に当たっては、ブロック制を導入し他学年との交流を図る。また、将来生徒が活動するであろう社会を視野に入れ、学校での活動が社会人としての活動の基盤づくりとなるよう配慮するとともに、社会の一員として生きていくために必要な資質やコミュニケーション能力を養うよう指導の工夫を図る。

(2) 教科関連行事

入学直後から、漢字、計算、英単語のテストを実施する。一定の基準に達するまで繰り返して行い、これからの学習に向けて基礎を十分に身に付けさせる。第2、3学年では、それぞれの進路に合わせた模擬試験を選択し受験する。各専門に関する選択科目群では様々な検定試験を行事計画の中に位置付け、第2学年から第3学年にかけて、生徒の計画に沿って受験できるようにし、将来の職業生活に役立てる。また、第2、3学期の始まる直前に各教科の補習と学

期始めの補充テストを実施し、これまでの学習内容の定着化を図るとともに、前学期の各教科の到達目標に達していない者には到達できるようにする。これにより基礎・基本の習得を図り、学習意欲が減退したり学校不適應による中途退学などを防止する。

(3) 進路指導・教育相談

第2学年からは、生徒の進路に応じたクラス編成をする。そのためには、進路目標を少しでも早く決定することが必要で、第1学年での進路指導を充実させる必要がある。そこで、第1学年で2回の職業講話を行う。初回は、社会人講師の話聞く場とし、社会での一般的知識などを理解させる。2回目の進路説明会では、第2学年への進級にむけて卒業生の経験談を聞く機会などを設ける。これらの進路に関する学習を通して、自己の目標を達成するのに必要な学習を自覚できるようにする。さらに、個人面談や教育相談の機会をできる限り多く設定した。生徒と教師の面談を通して、生徒の抱えている不安や疑問を取り除き、自己教育力を高める環境を整えることができる。そのため、このタイプの学校では、教育相談機能の充実を図る必要がある。

5 今後の課題

- (1) 現行制度では普通科と専門学科に区分されているが、専門に関する選択科目群を各学校でどのように位置付けるかにより、様々な展開が可能となり、特色ある学校づくりが推進される。しかし、この学校に在籍する生徒が転・編入学する場合、修得単位数、履修科目の関係で、課題が生ずることも考えられる。
- (2) 専門に関する選択科目群は2～3単位である。その中で、生徒の希望を重視しつつ、それぞれの能力、適性、個性をより生かすことのできる指導方法や教材の開発をする必要がある。
- (3) 専門に関する選択科目を担当する教師の確保が困難な場合は、当該科目に関する専門的知識・技術を有する社会人を市民講師として採用し、多様な生徒のニーズに応えるとともに地域の教育力を活用することが大切である。
- (4) 生徒が持つ様々な悩みや進路の相談のため、教師自らがカウンセリングマインドを持ち、積極的に対応することが重要である。また、専門のカウンセラーを置くことも考えられる。
- (5) 近隣の学校（商業科・工業科・農業科）や工業技術教育センター等の関連機関と協力し、施設・設備の活用を図ることが必要である。そのため、学校間の連携と共通理解を図るための連絡組織を設置することが重要となる。また、専門学校での学習成果を単位として認定したり、企業や研究所などでの現場実習を活用することも考えられる。

Ⅲ 全日制課程普通科Bタイプ

1 教育課程編成の基本的な考え方

学習活動の基本は授業にある。授業を通して基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせ、毎日の学習活動の積み重ねを通して生涯学習の基礎を培う。

また、特別活動の指導を通して生徒の自主性を養う。クラブ活動や学校行事に積極的に参加し、自主的に取り組もうとする態度の育成を目指す。集団活動を通して自らの役割や義務を自覚するとともに、生徒一人一人の個性や能力の伸長を図る。

その上、各教科・科目の学習や特別活動を通して自らの在り方や生き方を見いだすとともに、他者とのかかわりにも気付かせ、これを尊重し、協力する態度を養う。

さらに、進路指導を通して、将来の社会人・職業人としての生き方を考えさせ、正しい勤労観や職業観を身に付けるための活動を計画的に推進する。

2 教育課程の特色

生徒の興味・関心、適性等に応じて、自己実現の道を開くため、第1学年では基礎・基本を重視し、全ての生徒が共通して履修する教科・科目を多く設定した。「英語Ⅰ」(2単位)と「数学A」(2単位)を必修選択としているが、4月末までに十分個人指導を行い、自らの進路希望に応じて、履修科目を5月に登録させる。第2学年で進路を変更した生徒には、改めて履修が可能となるよう配慮した。

第2学年では、多様な選択科目を開設し、文系、理系の類型別コースを設けた。必修選択は、生徒の興味・関心に基づいた主体的な学習を通して思考力を育て、学習意欲を高めるため、それぞれのコースに応じ、教科の枠を超えた特色ある科目を設置した。この選択科目は、生徒の自主的な学習活動を重視するためできるだけ少人数で行う。評定は生徒の研究発表、レポート、自己評価表等の多様な資料を活用して弾力的に行う。また、文系では「英語Ⅱ」(4単位中の2単位)、理系では「数学B」(2単位)に、それぞれチームティーチング、習熟度別学習を取り入れ、きめ細かい指導を行うとともに授業の形態を工夫し、学力や学習意欲の向上を図る。国公立大学受験者には、受験に必要な教科・科目の選択ができるようにする。

第3学年では、自由選択科目の中に既に履修した科目の深化を図るとともに、応用力を身に付けさせる科目を開設した。

3 履修、修得、進級・卒業の認定について

必修科目及び生徒が登録した科目は、原則としてすべて履修する。履修と修得を区別し、

全日制普通科Bタイプの教育課程

教科	科目	標準単位数	1年		2年				3年				自由選択	
			必修	必修選択	文系		理系		文系		理系			
					必修	必修選択	必修	必修選択	必修	必修選択	必修	必修選択		
国語	国語Ⅰ	4	4											
	国語表現	4												
	現代文	4			3		2		3		2			
	古典Ⅰ	3			3								2	
	古典講読	3											3	
	世界史A	2											2	
地理歴史	世界史A	4			3		2		2				2・3	
	日本史A	2												
	日本史B	4												
	地理A	2			3		2		2				2・3	
	地理B	4												
	現代社会	4			3		2		2				2・3	
公民	現代社会	4												
	倫理	2	2										2	
	政治経済	2							2		2		2	
数学	数学Ⅰ	4	4										2	
	数学Ⅱ	3				2	3						2	
	数学A	3									3			
	数学B	2		△2			■2							
	数学C	2					2				2			
理科	総合理科	4												
	物理ⅠA	2			2(2科目)									
	物理ⅠB	4			2		2						2	
	物理ⅡA	2			2		2(2科目)						2	
	化学ⅠA	2			2								2	
	化学ⅠB	4			2		2						2	
	化学Ⅱ	2			2								2	
	生物ⅠA	2			2								2	
	生物ⅠB	4			2		2						2	
	生物Ⅱ	2			2								2	
地学	地学ⅠA	2			2								2	
	地学ⅠB	4			2		2						2	
保健体育	地学Ⅱ	2			2		2						2	
	保健体育	7~9	3		3		3		3		3		2	
芸術	音楽Ⅰ	2	1		1		1							
	音楽Ⅱ	2											2	
	美術Ⅰ	2			2		2						2	
	美術Ⅱ	2			2		2						2	
	工芸Ⅰ	2			2		2						2	
	工芸Ⅱ	2			2		2						2	
	書道Ⅰ	2			2		2						2	
	書道Ⅱ	2			2		2						2	
	英語Ⅰ	4	4	△2										
	英語Ⅱ	4			4		2	3					2	
外国語	オラルコミュA	2	2											
	オラルコミュB	2					2						2	
	オラルコミュC	2					2						2	
	ライティング	4			2		2		3		3		2	
家庭英語	ライティング	4											2	
	家庭英語	4			2		2						2	
その他	生活技術	4			2		2		2		2			
	外国事情	4			2		2		2		2			
	演習	4			2		2		2		2			
	小論文	3											2	
	数学特講	3											2	
	数学演習	3											2	
	数学科	3											2	
	教育・福祉	3											2	
	物理演習	3											2	
	化学演習	3											2	
	生物演習	3											2	
	地学演習	3											2	
	日本文学	3											2	
	国際社会	3											2	
	経済学入門	3											2	
政治学入門	3											2		
ホームルーム活動	1	1											1	
クラブ活動	1	1											1	
履修単位数計			32				32					22~32		

学習内容を理解し、目標に到達した場合は、学年末にその教科・科目の修得を認定する。学年制を基本としつつ第1, 2学年を通して未修得の単位数が10単位未満の者は進級を認定する。ただし、各学年で履修した科目に関しては、補習・追試・課題提出などを行い、修得できるように配慮する。教科・科目の履修単位数は80~90単位であり、卒業に必要な修得単位数は80単位とした。

4. 時間割編成例(月1回第2土曜日が休業日)

(1) 1学年共通

	月	火	水	木	金	土	第1週	第3週	第4週	第5週
							土	土	土	土
1	国I	倫理	数I	英I	国I	数英	数英	数英	数英	第
2	数I	国I	英I	数I	倫理	理IA	理IA	数英	数英	同1
3	英I	英I	理IB	国I	数I	キャリア	理IA	理IA	理IA	じ週
4	OA	数英	保健	理IA	OA	ダンス	キャリア	キャリア	キャリア	に
5	芸	体	HR	家	理IB					
6	術	育	クラブ	庭	体育					

※以下, 2, 3学年も同じパターン

(2) 2学年文系(人文コース)

	月	火	水	木	金	土
1	家	日地	世B	古I	芸	日講
2	庭	古I	現文	日講	術	理英
3	日地	理英	英II	日地	古I	キャリア
4	英II	英II	RE	英II	世B	ダンス
5	現文	体	HR	保健	現文	
6	世B	育	クラブ	体育	RE	

2学年文系(社会科学コース)

	月	火	水	木	金	土
1	世B	現文	英II	RE	英II	経数
2	現文	英II	世B	現文	古I	理英
3	英II	芸	保健	古I	世B	キャリア
4	日地	術	日地	経数	日地	ダンス
5	理英	RE	HR	体	家	
6	体育	古I	クラブ	育	庭	

※○印の科目は、必修選択(全学年)である。選択科目等について、以下に説明する。OA・・・オーラルコミュニケーションA、数英・・・数学A・英語I、理IA・・・物・化・生・地IA、理IB・・・物・化・生・地IB、日地・・・日本史B・地理B、理英・・・理IB・英語II、日講・・・日本文学講読A・B、経数・・・経済学入門・数学IIその他、RE・・・リーディング

2学年文系(国際コース)

	月	火	水	木	金	土
1	現文	英II	RE	英II	英II	LL他
2	古I	世B	現文	古I	世B	理英
3	体	日地	古I	家	現文	キャリア
4	育	理英	日地	庭	日地	ダンス
5	英II	芸	HR	世B	RE	
6	LL他	術	クラブ	保健	体育	

2学年理系

	月	火	水	木	金	土
1	現文	体	数II	数B	数II	数科
2	数II	育	世AB	現文	理IB	理IB
3	世AB	理IB	英II	日地	RE	キャリア
4	英II	RE	理IB	英II	保健	ダンス
5	家	数B	HR	数科	芸	
6	庭	日地	クラブ	体育	術	

(3) 3 学年文系

	月	火	水	木	金	土
1	現文	政経	RE	世B	WR	日地
2	RE	WR	現文	政経	体育	体福
3	日地	体	日地	RE	現文	
4	世B	育	WR	古世	古世	
5	古世	日地	HR	論数	日地	
6	論数	倫地	クラブ	体福	倫地	

3 学年理系

	月	火	水	木	金	土
1	現文	数C	数Ⅲ	数C	政経	理Ⅱ
2	RE	政経	RE	現文	数Ⅲ	理Ⅱ
3	数Ⅲ	理Ⅱ	体	理Ⅱ	RE	
4	WR	WR	育	WR	体育	
5	古英	理演	HR	世数	世数	
6	日倫	理演	クラブ	日倫	古英	

※口印の科目は、自由選択で3学年に設けてある。

選択 科目等の説明は、以下の通りである。 (LL他)・LL演習その他、(世AB)・世界史A・B
 2 学年理系(日地)・日本史A・B・地理A・B、(数科)・数学特講・科学史その他、 3 学年(日地)・日本史B・地理B、WR・ライティング、(古世)・古典Ⅱ・世界史B、(論数)・小論文・数学Ⅰ・Ⅱ、(日地)・日本史B・地理B、(倫地)・倫理・地学Ⅱその他、(体福)・体育・保育・福祉その他、(理Ⅱ)・物・化・生・地Ⅱ、(古英)・古典Ⅰ・英語Ⅱ、(日倫)・日本史B・倫理その他、(理演)・物理・化学・生物演習、(世数)・世界史B・数学演習その他、

5 キャリアガイダンス(第1, 2 学年)

(1) 目 標

自己の在り方生き方を見つめ、進路を考え、望ましい職業観・勤労観を養う。職業理解・進路適性を基に、自己の目標の実現を図る。

(2) 指導の重点

職業体験学習を深め、進路適性を正確かつ具体的に捉え、進路の自主的な決定とその実現に努める。

(3) 学年別指導目標

第1 学年は、自己理解を深め、勤労体験学習を重視する。

第2 学年は、自己の能力・適性を捉え、目標を具体化し、その実現を目指す。

(4) 年間指導計画

月	内 容
4月	第1回進路希望調査(1年) 第2回進路希望調査(2年)
5月	働く意義・目的を把握(1年) オリエンテーション合宿(1年) 「進学講話」, 大学及び学部説明会(2年)
6月	「職業講話」, 進路説明会(1年) 卒業生との懇談会, 合格体験発表会(2年)
7月	職場見学(1年), 三者面談(2年)
9月	職業適性検査(1年), 進路適性検査(2年)
10月	企業体験, 進路適性検査(1年) 小論文指導開始, 職業と学部を知る(2年)
11月	三者面談(1年), 大学・短大見学(2年)
12月	グループ学習「職業と学問」(1年) 進路希望決定(2年)
1月	「経済動向と就職」学習(1年) 進学と教科を探る(2年)
2月	作文「私と職業」(1年) 進路計画作成(2年)
3月	進路計画作成(1年) 大学入試センター試験ガイダンス(2年)

6 年間行事計画

以下に示す年間行事により、人間としての在り方生き方を考える指導を充実する。なお、期末考査終了後の授業形態を工夫することにより、各教科・科目の授業時間数を確保する。

「第1学年オリエンテーション合宿」：高校生活への適応を図るとともに、これからの目標を明確にし、生徒相互や教師との人間関係を深める。

「第2学年進路説明」：卒業生から進路を決定した時の経緯を聞き、自らの進路や適性を具体的に考える。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
日	行事	行事	行事	行事	行事	行事
1	木	土	火	木	日	水
2	金	日	水	金	月	木
3	土	月	木	土	火	金
4	日	火	金	日	水	土
5	月	水	土	月	木	日
6	火	木	日	火	金	月
7	水	金	月	水	土	火
8	木	土	火	木	日	水
9	金	日	水	金	月	木
10	土	月	木	土	火	金
11	日	火	金	日	水	土
12	月	水	土	月	木	日
13	火	木	日	火	金	月
14	水	金	月	水	土	火
15	木	土	火	木	日	水
16	金	日	水	金	月	木
17	土	月	木	土	火	金
18	日	火	金	日	水	土
19	月	水	土	月	木	日
20	火	木	日	火	金	月
21	水	金	月	水	土	火
22	木	土	火	木	日	水
23	金	日	水	金	月	木
24	土	月	木	土	火	金
25	日	火	金	日	水	土
26	月	水	土	月	木	日
27	火	木	日	火	金	月
28	水	金	月	水	土	火
29	木	土	火	木	日	水
30	金	日	水	金	月	木
31	月	月	木	土	火	土
		①オリエンテーション			夏季休業日終	

「第3学年進路説明」：進路指導に関する情報を基に、進路の決定についての理解を深める。

「第1学年・第2学年学習合宿」：自ら学習する習慣を身に付ける。野外活動等も取り入れ、各教科等の学習ばかりでなく、広い知見と豊かな情操を養う。第1学年は春季休業中にも行う。

「芸術教室」：わが国の伝統芸術に直接触れることにより、文化と伝統を尊重する態度を育成するとともに情操を高める。また、優れた芸術に対する感動を通して、感性を育む。全学年対象。

「文化講演会」：講演を通じてさまざまな文化に触れ、豊かな心を育む。全学年対象。

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日	曜日	行事	曜日	行事	曜日	行事
1	金	都民の日	月		火	①②
2	土	芸術教室	火		水	マラソン大会
3	日		水	文化の日	木	
4	月		木		金	
5	火		金		土	避難訓練
6	水	HR,クラブ	土		日	
7	木		日		月	
8	金		月		火	
9	土		火	HR,クラブ	水	PM①弁論会予選
10	日	体育の日	水		木	
11	月	振替休日	木		金	建国記念の日
12	火		金		土	
13	水	HR,クラブ	土		日	
14	木		日		月	
15	金		月		火	
16	土		火		水	PM②ｽﾍﾞｰﾁｺﾝﾃｽﾄ
17	日		水	HR,クラブ	木	予選
18	月		木	AM授業PMクラブ	金	
19	火		土	AM授業	土	
20	水	↑ 中間考査	日		日	
21	木		月	AM授業PMクラブ	月	
22	金		火	AM授業PMクラブ	火	
23	土		水	AM授業PMクラブ	水	
24	日		木	天皇誕生日	木	
25	月		金	AM授業PMクラブ	金	
26	火		土	終業式	土	
27	水	HR,クラブ	日	冬季休業日始	日	
28	木	②修学旅行	月	①②ｽﾍﾞｰ教室	月	
29	金		火		火	
30	土	↓ 学校裁量	水		水	
31	日		木		木	

Ⅳ 全日制課程職業科

1 工業科の教育課程

(1) 教育課程編成の基本的な考え方

科学技術の進歩や、産業構造・就業構造の変化等、社会の変化にともなって、職業人に必要な資質・能力は変化している。一方、工業高校には、能力、適性、興味・関心、進路等の多様な生徒が多く在籍しており、中途退学者の問題や、学習指導・生活指導上の課題に直面している。したがって、高等学校教育では、生徒の主体的な選択を重視した教育、人間としての在り方生き方に関する教育、個を生かした指導、自己教育力の育成等が求められている。

ここでは、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、工業科としての高い専門性を確保しながら、しかも既設の工業高校の中で生徒の個性を生かすことができる教育課程について検討した。その結果、

- ① 第1学年では中学校教育との連続性を考慮し、機械科、工業化学科などの各学科の枠を超えて共通の教科・科目を履修させる。また、習熟度別学習を取り入れるなど、基礎・基本を重視するとともに、自己の能力・適性を発見させ、進路意識の確立を図り、第2学年における学科選択の準備をさせる。
- ② 第2学年から、生徒の興味・関心、進路等に応じて各学科を選択させ、各学科ごとに必要な科目を履修させるとともに、普通教科・専門教科にまたがる多様な自由選択科目を2科目6単位設置し、生徒が主体的に学習できるよう配慮した。
- ③ 進学を希望する生徒には、普通科目を8単位多く履修できる基礎工学科を選択させる。生徒の選択の余地が少ない従来の教育課程と異なり、自己についての認識が十分でない生徒が、高校の3年間を通じて自己の能力・適性を認識し、自己教育力を高め、自己の進路を見いだせる教育課程となるよう配慮した。

(2) 今後の課題

- ① 生徒が、各学科や教科・科目を適切に選択し主体的に学習できるようにするために、ホームルーム活動等において、進路指導、ガイダンス等を計画的に実施する必要がある。
- ② 各学科を選択する際、他校における科目を選択できるなど近接校間の連携も大切である。
- ③ 地域の実態や学校の特色に応じた一括募集による入学者選抜や、学科を超えたホームルーム編成等についても検討する必要がある。

(3) 編成例

教科	科目	標準単位数	1年			2年			3年		
			必修	必修選択	自由選択	必修	必修選択	自由選択	必修	必修選択	自由選択
国語	国語 I	4	4								
	国語 II	4									△3
	現代文 I	4									
	現代文 II	2			2		3				*△4
地理歴史	世界史 A	2	2								
	日本史 A	2				2					
	地理 A	2				2					
公民	現代社会	4									4
	政治経済	2									2
数学	数学 I	4	4								
	数学 II	3					3				△3
	数学 A	2			2						
	数学 B	2									*△4
理科	物理 I	2				2					*4
	物理 B	4				2					*4
	化学 I	2				2					
	化学 B	4									*4
生物	化学 I	2	2								
	化学 A	2									
保健	体育	7-9	2			2			3		
	保健	2	1			1					
芸術	音楽 I	2		2							
	美術 I	2		2							
	工芸 I	2		2							
	書道 I	2		2							
英語	英語 I	4	3		2						
	英語 II	4					3				
	オールラウンドコミュニケーション	2						2			
	リーディングライティング	4									△3
家庭	家庭一般	4			2			2			
											*△4
普通科目計			18	2		11	4	0-3	7	4	0-3
											*8

履修すべき科目計	84~		
選択科目計	~6		
ホームルーム活動	1	1	1
クラブ活動	1	1	1
履修単位合計	90~96		

教科	科目	標準単位数	1年			2年			3年		
			必修	必修選択	自由選択	必修	必修選択	自由選択	必修	必修選択	自由選択
機械	工業基礎	3	3								
	工業化学	*									
	工業製図	*									
	工業数理	3									
	情報技術基礎	2									
	課題研究	2									
	機械工学設計	4-6									
	機械製作	3-6									
	原動機	2-4									
	電子制御	2-6									
科目	計測・制御	2-4									△3
	電子機械	2-6									△3
	自動車工学	2-8									△3
	基礎工学	2-8									
専門科目計			10				12		0-3	16	0-3

工業	工業基礎	3	3								
	工業化学	*									
	工業製図	*									
	工業数理	3									
	情報技術基礎	2									
	課題研究	2									
	工業化学	6-8									
	化学工業	3-6									
	化学工学	3-4									
	化学システム技術	3-4									
科目	環境工学	8-10									△3
	セラミクス材料	2-4									△3
	生物工学基礎	2-6									△3
	基礎工学	2-6									
専門科目計			10				12		0-3	16	0-3

基礎	工業基礎	3	3								
	工業化学	*									
	工業製図	*									
	工業数理	3									
	情報技術基礎	2									
	課題研究	2									
	工業化学	6-8									
	化学工業	3-6									
	化学工学	3-4									
	化学システム技術	3-4									
科目	環境工学	8-10									△3
	セラミクス材料	2-4									△3
	生物工学基礎	2-6									△3
	基礎工学	2-6									
専門科目計			10				12		0-3	8	0-3

*「実習」と「製図」は、学校、学科及び生徒の実態に応じて適切な単位数を配当する。

*印は基礎工学科における単位数。

3学年における自由選択の専門科目は生徒の進路などに応じた科目を設置する。

2 商業

(1) 教育課程編成の基本的な考え方

新高等学校学習指導要領には商業の目標として「商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、商業の意義や役割を理解させるとともに、経営活動を主体的、合理的に行い、経済社会の発展に寄与する能力を育てる」と示されている。

東京都では、現在、商業科、情報処理科、国際会計科、会計科の4学科が設置されており、ここでは商業科、情報処理科、国際会計科について取り上げた。

商業高校の生徒数は減少傾向にあり、また生徒の多様化も進んできている。卒業後の進路も、さまざまな分野に及び、専門学校などへの進学も増え、ますます多様化すると予想される。学校教育では基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせ、自ら学ぶ意欲と主体的に学習する意志の形成、即ち「自己教育力を育成」することが重要と考えた。基礎・基本を重視して自己の興味・関心、適性に応じて選択できる体系的な教育課程の編成に当たり、①社会の変化や技術の高度化に対応し、②生涯にわたって活用できる職業資格の取得が可能で、③課題解決能力や創造性の育成を図り、④生き生きとして、自己実現を図る教育活動の展開をめざし、⑤生徒の進路希望を生かすことを基本的な考え方として検討した。

第1学年では基礎・基本を特に重視し、中学校教育との連携も考慮して必修科目のみとし、ホームルーム活動だけでなく、あらゆる機会を活用して自己発見につとめさせ、進路意識を高め、選択科目の心構えを養う。

第2学年では、生徒の実態に即し、学習の補充を目的として「国語Ⅰ」、「数学A」、「英語Ⅰ」のうちから2単位を選択させることとした。

第3学年では、単位制の趣旨を生かすとともに、興味・関心、適性、進路に応じた学習が可能となるよう普通教科で2科目5単位、商業教科で1科目3単位の自由選択を設けた。

また「課題研究」を第2、3学年で履修させ、実際の・体験的学習の充実を図り、課題解決型学習を重視するようにした。

(2) 今後の課題

- ① 自由選択の意義を積極的に活かすよう、教師の意識改革と指導力の向上が重要である。
- ② 生徒が主体的に科目選択できるように、早くからガイダンス等を計画的に行う必要がある。
- ③ 多様な選択が可能な教育課程を編成するので、施設の充実、教員の数を増加することを検討する必要がある。

(3) 編成例

教 科	科 目	標準単位数	1 年			2 年			3 年		
			必修	必修選択	自由選択	必修	必修選択	自由選択	必修	必修選択	自由選択
国 語	国語 I 現代文	4	4					△2			△2
	国語 II 現代文	2			2				3		
地理歴史	世界史 A	2	2								
	日本史 A	2				2					
	地理 A	2				2					
公 民	現代社会	4							2		▲3
	政治経済	2						2	2		
数 学	数学 I	4	3		2						▲3
	数学 II	3									
	数学 III	3									
	数学 A	2						△2			
理 科	総合科学	4									▲3
	物理 I	2		2		2					
	化学 I	2		2		2					
	生物 I	2		2		2					
保 体	体育	7~9	2		2			3			△2
	保健	2	1		1						
芸 術	音楽 I	2		2							△2
	美術 I	2		2							△2
	工芸 I	2		2							△2
	書道 I	2		2							△2
英 語	英語 I	4	4					△2			
	英語 II	4			4						
	オーラル・コミュニケーション	2							2		△2
	ライティング	4									▲3
	リーディング	4									▲3
	ライティング	4									
家 庭	家庭生活一般	4				2				2	
	家庭技術一般	4				2				2	
	家庭生活一般	4				2				2	
普通科目計			16	4		11	6	0~2	12	2	0~5
履修すべき科目計			80~								
選択科目計			~10								
ホームルーム活動			1			1			1		
クラブ活動			1			1			1		
履修単位数合計			86~96								

教 科	科 目	標準単位数	1 年			2 年			3 年			
			必修	必修選択	自由選択	必修	必修選択	自由選択	必修	必修選択	自由選択	
商 業	流通経済	3~5	3									
	簿記	3~8	4					3				
	情報処理	3~5				3					3	
	総合実践	2~6	3									
	課題研究	3~6				3						
	商業実務	2~4				2			3			
	商品	2~4							2			
	マーケティング	2~4								3		
	商業デザイン	2~5								3		
	経営	2~4									3	
	商業法規	2~5									3	
	英語実務	2~9									3	
	国際経済	2~4									3	
	工業簿記	2~5									3	
	文書処理	2~5									3	
	専門科目計		10				8	3		5	3	0~3

教 科	科 目	標準単位数	1 年			2 年			3 年			
			必修	必修選択	自由選択	必修	必修選択	自由選択	必修	必修選択	自由選択	
商 業	流通経済	3~5	3									
	簿記	3~8	3					3				
	情報処理	3~5	4									
	総合実践	2~6						2				
	課題研究	2~4										
	商業実務	2~4									3	
	商品	2~4										
	マーケティング	2~4								3		
	商業デザイン	2~4								3		
	経営	2~4									3	
	商業法規	2~5									3	
	英語実務	2~4									3	
	国際経済	2~4									3	
	工業簿記	2~5									3	
	文書処理	2~5									3	
	専門科目計		10				8	3		5	3	0~3

教 科	科 目	標準単位数	1 年			2 年			3 年			
			必修	必修選択	自由選択	必修	必修選択	自由選択	必修	必修選択	自由選択	
商 業	流通経済	3~5	3									
	簿記	3~8	5					2				
	情報処理	3~5										
	総合実践	2~6						2				
	課題研究	2~4										
	商業実務	2~4									3	
	商品	2~4										
	マーケティング	2~4									3	
	商業デザイン	2~5									3	
	経営	2~4									3	
	商業法規	2~5									3	
	英語実務	2~9									3	
	国際経済	2~4									3	
	工業簿記	2~5									3	
	文書処理	2~5									3	
	専門科目計		10				8	3		5	3	0~3

V 定時制課程普通科

1 教育課程の基本的な考え方

定時制高校には、それぞれの目的意識を持って働らきながら学び、卒業後、再就職や上級学校へ進学を希望している生徒がいる。それらの生徒は、職場での社会常識を身に付けることにより、「勤労」と「勉学」に対して堅実な考えを持っている。また、欠席も少なく、学校行事に積極的に参加し、所期の目標を達成する生徒が多い。しかし、一方では、全日制高校を希望しながらもそれがかなわず不本意ながら入学してきた生徒もいる。それらの生徒の中には、昼間職に就かず、無為な時間を過ごすことから、精神的充実感を持たず授業に集中できないものもいる。定時制で学ぶ生徒の多くは基礎学力に乏しく、学ぶ楽しさや喜びを味わった経験が少ないという実態がある。学校行事においても主体的に活動し、自主的にリーダーシップを発揮したり、全体に奉仕したり協力したりする経験をもつ生徒は少ない。また、人間関係を構築することが不得意な生徒もいる。

このような実態に応じて、夜学ぶという定時制高校の特色を生かして、①基礎学力の充実、②多様な選択科目の設置、③学校行事と教科・科目の授業連携の柱を立て、学校生活の中で充実感や成就感が得られる教育課程の編成を検討した。検討に当たっては生徒の能力、適性、興味・関心、進路等を十分に把握し、基礎的・基本的な学力を身に付けさせるようにした。さらに、互いに協力して学校行事等を成し遂げようとする態度や責任感の育成を図るよう配慮した。また、教科の枠を超えた指導内容や指導方法についても検討した。

2 基礎的・基本的内容の習得

多くの生徒の中には、高校で学習する教科・科目の内容をただちに理解することは難しい生徒もいる。したがって、指導に当たっては中学校での学習内容との関連を十分に図ることが必要である。そこで、第1, 2学年に必修修選択科目として「数学1」「国語1」の基礎構座を2単位置いた。これらは、学年を超えた学習形態にし、複数の教師により指導することが望ましい。また、学習習熟度別の学習や生徒相互に教え合うことのできるような学習形態の工夫も必要であろう。

基礎的・基本的内容の習得を図るには、全ての生徒が授業に集中することが大切である。また、学習内容を細分化し、ひとつのステップが理解できるかどうか検証しながら授業を行い、さらに、細分化したものを改めて組立てることが必要である。それぞれの高校の実態と教科の内容を考慮して、年間授業計画の中で様々な授業形態を取りながら、充実した授業にする。

「数学Ⅰ」「国語Ⅰ」の基礎講座では、基礎学力を定着させるために反復学習を大切にし、これを可能にするノートの取り方を具体的に指導する。学力を身に付けるには、繰り返し学習することが大切であることを自覚させる必要がある。

3 多様な選択

生徒が自らの特性に応じた主体的な学習を進めるには、生徒が自由に選択できる教育課程を編成し、豊かな個性を育むことが重要である。主体的に選択科目が決定できるように第2学年でカリキュラムガイダンスや教育相談を行い、学校不適応の解消にも配慮する。

この教育課程では、第1、2学年で基礎・基本を十分に習得し、第3、4学年でそれぞれの進路希望に即した科目を選択できるようにした。またそれぞれの個性の伸長を図るため「国語－地理歴史－公民」「数学－理科」「外国語－商業」と3つの選択教科群を設置した。文系の大学等への進学を希望する生徒には、英語、国語、地理歴史、公民を選択できるようにした。理系の大学等へ進学を希望する生徒は、第3学年では△印1科目、▲印2科目、第4学年では△印1科目、▲印3科目を選択できる。就職等を希望する生徒は、「外国語－商業」から5科目を選択でき、卒業後の職業生活に役立つよう配慮した。

十分な基礎・基本の習得の上に、各生徒の能力を伸長させることにより、一人一人の生徒の自己啓発をもたらし、そのことが学校の活性化を図ることにつながる。さらに、学校への帰属意識も高まることが期待できる。また、それぞれの生徒が興味・関心に即した科目を選択し、充実した授業を体験することにより学ぶ喜びや充実感を体得して、自主的に学ぼうとする意欲が生まれ、ひいては思考力、判断力、表現力を養うことにもなる。

4 学校行事と教科・科目の授業の連携

多様な選択のバリエーションのひとつの例として第3、4学年に以下のようなところみを考えた。

- ① 「国語表現」と「声楽」を選択必修科目とした。「国語表現」の目標を広くとらえ、演劇を中心に、表現力の育成と、協同作業を通しての協調性・責任感の育成に重点を置いて指導する。古典芸能・演劇の鑑賞や、文化祭での創作劇の発表等を通して、「聞き、読み、書き、話す」という国語の学習の目標をみたと考えられるためである。同様に、「声楽」は、コーラスを中心に、オペラやミュージカルの鑑賞会等により授業を行う。最終的には、文化祭での発表を目指す。
- ② 商業の「課題研究」を設けた。働きながら学ぶ生徒たちに、あらためて、職業の意義を考えさせ、これまでの自分の生き方を振り返り、望ましい職業観をもたせるよう考えた。生徒

が「職業と人間」「流通経済の実態」「賃金と休暇」等様々なテーマを設定し、調査・研究することが考えられる。

- ③ 選択A, 選択Bを設けた。選択Aでは、就職を前提に、商業科の科目の履修と検定試験を通した資格取得を目標とする科目を設けた。いずれも日商4級程度以上の合格を目標とし、第3, 4学年でそれぞれ別の科目を履修させる。職業人としての自信と自覚を求める科目と言ってよい。選択Bでは、教科や科目の枠を超えた内容を取り上げ、生徒の興味・関心に応じて「アメリカ史」「生活数学」「古典芸能」「役立つ科学」「エアロビクス入門」「地球環境と人間」「野球」「サッカー」等、学校の実態にあった様々なその他の科目の設定も考えられる。また、他校と連携し、自校以外での学習成果の単位認定を検討することも考えられる。
- ④ 地理歴史にその他の科目として「地域研究」を設けた。これは、修学旅行の活性化と内容の充実をめざし、事前研究、実地体験、事後報告の3段階に分けて指導するものである。

5 今後の課題

- ① ティームティーチングやグループ学習を効果的に実施するためには、高校の実態に即して年間指導計画を具体的に作る必要がある。
- ② 入学時、第2学年時に、生徒の興味・関心、適性、能力、進路等を正確に把握し、ホームルーム活動を通してきめ細かい指導やキャリアガイダンスを実施することが必要である。
- ③ 学校行事と教科・科目の連携を図る選択科目である、「国語表現」「声楽」、選択B、「地域研究」の指導に当たっては、地域社会との連絡を密にして、市民講師等を活用することが必要である。
- ④ 多様な選択科目を実施し、生徒の興味をひく魅力ある授業を創造するためには、施設・設備の改善が必要である。例えば、演劇の学習を行うには、舞台のある視聴覚機材の整った教室が必要である。また、この教室は、学校行事（予餞会）等でも有効に利用できる。「数学Ⅰ」「国語Ⅰ」の基礎講座でゼミ形式の授業や習熟度に応じた学習を行うには、普通教室とは雰囲気の違い小教室が必要である。
- ⑤ 教員の専門分野での研修は、当然のことであるが、多様な選択を実施していく上で専門分野以外の幅広い研修を充実させ、教科の研修の機会を与え、教員の能力を有効に生かす努力が必要である。

教 科	目 科	標準 単 位 数	1 年		2 年		3 年				4 年							
			必修 修	自由 選 択	必修 修	自由 選 択	A		B		A		B					
							必修 修	自由 選 択	必修 修	自由 選 択	必修 修	自由 選 択	必修 修	自由 選 択				
国 語	国語Ⅰ	4	2		2													
	国語表現	4					△2		△2									△2
	現代文	4					△2					△2						
	現代文Ⅰ	4					△2		2									
	古典Ⅰ	3					△2											
	古典講義	2					△2											
地 理	世界史A	2	2				△2											
	世界史B	4	2		2													
	日本史A	2			2		△2											
	日本史B	4			2		△2											
歴 史	地理A	2			2		△2											
	地理B	2			2		△2											
	地域研究	2			2		△2											
公 民	現代社会	4	2		2													
	倫理	2					△2											
	政治経済	2					△2											△2
数 学	数学Ⅰ	4	2	2														
	数学Ⅱ	3			3	△2												
	数学Ⅲ	3																
	数学A	2					2											
	数学B	2																
理 科	総合理科	4																
	物理ⅠA	2		2														
	物理ⅠB	4		2														
	物理Ⅱ	2																
	化学ⅠA	2		2														
	化学ⅠB	4		2														
	化学Ⅱ	2																
	生物ⅠA	2		2														
	生物ⅠB	4		2														
	生物Ⅱ	2																
	地学ⅠA	2		2														
	地学ⅠB	4		2														
保 体	保健	7-9	2		2		2		2			2						
	健康	2	1		1													
芸 術	音楽Ⅰ	2		2														
	音楽Ⅱ	2				2												
	音楽Ⅲ	2																
	美術Ⅰ	2		2														
	美術Ⅱ	2																
	工芸Ⅰ	2		2														
	工芸Ⅱ	2																
	書道	2		2														
音楽	2																	

教 科	目 科	標準 単 位 数	1 年		2 年		3 年				4 年							
			必修 修	自由 選 択	必修 修	自由 選 択	A		B		A		B					
							必修 修	自由 選 択	必修 修	自由 選 択	必修 修	自由 選 択	必修 修	自由 選 択				
外 国 語	英語Ⅰ	4	2		2													
	英語Ⅱ	4							2									
	オーラルA	2							2									
	コミュニケーションB	2																
	ケーンズC	2																
	リーディング	4																
	ライティング	4																
	家庭一般	4																
	生活技術	4																
	生活一般	4																
産 業	流通経済	3-6																
	簿記	3-6																
	情報処理	3-6																
	文書処理	2-6																
	計算事務	2-6																
	商業法規	2-6																
	課題研究	2																
選択B	2																	
ホームルーム活動		1		1				1				1					1	
クラブ活動		1		1				1				1					1	
履修単位数合計		22		22				22				22					22	

◆ 3、4 学年必修選択は、文系進学者希望者は、
 3 学年 △印2 科目、▲印1 科目、□印2 科目
 4 学年 △印3 科目、▲印1 科目、□印3 科目
 また、理系進学者希望者は、
 3 学年 △印1 科目、▲印2 科目
 4 学年 △印1 科目、▲印3 科目とする。

Ⅵ まとめと今後の課題

1 まとめ

平成6年度から予定されている、新学習指導要領の実施まであとわずかとなった。東京都教育委員会は本年3月「東京都公立高等学校教育課程編成基準・資料」を作成した。教育課程は、地域や生徒の実態、学科の特色を十分考慮に入れて編成されなければならない。本研究では、都立高校が抱えている様々な課題を考慮にいれ、最も重視すべきテーマとして、「自己教育力を高める弾力的な教育課程の編成」を決め、5つのタイプの学校の教育課程について、検討してきた。ねらいと成果は次の通りである。

- (1) 普通科Aタイプ 学年を超えた多様な選択を可能とし、生徒の希望やニーズを生かせる。
- (2) 普通科Bタイプ 目的意識の明確な生徒の向学心をより一層生かせる。
- (3) 工業科 第2学年で学科の選択が可能となり、個性の伸長と学習意欲の向上が図れる。
- (4) 商業科 選択科目の拡大により、自己教育力を高め個性伸長が図れる。
- (5) 定時制 基礎・基本の徹底を図ることにより、生涯教育の基礎が培われる。

また以上の他に研究の過程で出されたアイデアは次の通りである。

- (1)中高一貫教育 (2)前期・後期の二期制 (3)他校における授業の単位認定や施設等の利用
- (4)工業高校間における第2学年からの転・編入学(学科選択) (5)全日制普通科Bタイプにおける「英語Ⅱ」の代わりに「オーラルコミュニケーション」「リーディング」「ライティング」の履修 (6)学校行事の精選及び授業時数の確保 等

2 今後の課題

- (1) 選択制を大幅に取り入れており、生徒へのガイダンスに相当の時間をかける必要がある。
- (2) 選択科目の一層の拡大が必要である。
- (3) 多様な教育課程の編成に対応しうる教員、施設・設備の確保についての検討が急がれる。
- (4) 進級・卒業に関する規定については各学校の実態に応じて検討する必要がある。
- (5) 特別活動の指導計画の作成に当たっては、系統的・継続的な進路指導を行う必要がある。

今後ますます多様化する生徒の実態に応じて、各学校が創意工夫をこらして弾力的な教育課程を編成し、特色ある学校づくりの推進をすることが求められている。そのためには、何よりも、各教師の意識の変革が望まれる。